

エディトリアル

大学で取り組む地域医療

六合温泉医療センター センター長
介護老人保健施設市川ゆうゆう 管理者 折茂賢一郎

専門医制度が揺れている。一般社団法人日本専門医機構は専門医を次のように定義している。「それぞれの診療領域における適切な教育を受けて、十分な知識・経験を持ち、患者から信頼される標準的な医療を提供できる医師」である。その上で、新たな専門医の領域として「総合診療医」を加えようとしているのは周知のところ。では、この総合診療医を育成するためには、どこで、誰が、どのように教育を提供すればよいのであろうか。医師を育成するのはわが国では医学部とされており、国家試験に合格することが基準となっている。そこで今回は、総合診療医を育成するのに最も身近であろうと思われる地域医療関連講座の中から6講座をピックアップして、各々の講座が何を考えどこに向かって進もうとしているのか、地域で活躍しようとする医師の目指すべき方向性は何なのか…を考える礎になってほしいと願って特集を組んだ。

一般社団法人日本プライマリ・ケア連合学会のホームページの冒頭には、「私たちは身近で良質なケアを通して、みなさんの健康を支える学術団体です」と書かれている。その上で、プライマリ・ケアの専門医ではなく、家庭医療の専門医を次のように定義している。「人々が健康な生活を営むことができるように、地域住民とのつながりを大切にしたい、継続的で包括的な保健・医療・福祉の実践及び学術活動を行える医師を学会として認定し、もって会員の資質の向上とプライマリ・ケアの発展に寄与することを目的とする」と。一方、公益社団法人地域医療振興協会が定義している地域医療とは、「医療人、住民、行政が三位一体となって、担当する地域の限られた医療資源を最大限有効に活用し、継続的に包括的に医療を展開するプロセス」としている。見逃さずに注目してもらいたい単語に、「プロセス」がある。限界集落や地域の自治体消滅の危機が噂されている中、その地域で求められる医療も時代とともに様相が変わってくるものである。そのために、われわれ医療提供側も地域に合わせて変わるべきであり、そのためには変わるという「プロセス」が大切になってくるというものである。ここに留意してもらいたい。また、医療分野における「へき地」とは『交通条件及び自然的、経済的、社会的条件に恵まれない山間地、離島その他の地域のうち、医療の確保が困難である地域をいう。無医地区、無医地区に準じる地区、へき地診療所が開設されている地区等が含まれる』と定義している。ちなみに無医地区とは『医療機関のない地域で、当該地域の中心的な場所を起点として概ね半径4 Kmの区域内に人口50人以上(昭和40年以前は人口300人以上)が居住している地域であって、かつ、容易に医療機関を利用できない地区のことをいう』と定義されている。

地域医療、へき地医療、総合診療、プライマリ・ケア、家庭医療…さまざまな用語が飛び交う昨今では、さらに地域包括ケアなる単語も叫ばれている。定義はさまざまあろうが、目指すところは一つであろうことは誰もが思うところ。特色のある6講座の取り組みを通して読者が何を感じ、何を発信してくれるのかに期待をしている。